



安心して暮らせるまちを目指し、地域みんなで取り組みます 今こそ地域でふれあいの輪を！

少子高齢化が進む中、地域の中で孤立する方がいないよう、
つながりづくりを豊かにする事例をご紹介します。

地

域福祉懇談会は、地域の方々が集まって、楽しく安心して暮らすための知恵を出し合う場です。ここで、多くの参加者から「見守り」や「安否確認」への発言がありました。

懇談会は、昨年度10カ所で開かれています。主に福祉のことですが、町内会や自治会の役員、民生委員児童委員、地域でボランティア活動に携わる方、福祉施設や相談業務の専門職の方といった地域住民の間で話し合われていて、ここでその一部を紹介すると…

「便利なサービスが増え、一人でも生きられるようになった。反面、隣近所と付き合い合わない人もいるのが気にかかる」「健康で、安心して暮らせる石狩市を目指して、今こそ同じ地域に住む人同士が声を掛け合い、助け合える関係づくりが必要じゃないかな？」

私たちもこうした話し合いの中で、地域の中の心配な方に対する見守り

や、安否確認のネットワークづくりを提案しています。

具体的には、カーテンの開け閉めや電気の点灯など、心配な方に対してちょっと意識して見守る方を「福祉協力員」とし、その取りまとめ役を「福祉調整員」とした概念図をご説明し、地域の実態に合わせて取り組んでいただきたいとお願ひしています。住民同士のさりげない見守りや安否の気遣いこそ、安心して暮らせる地域づくりの第一歩と考えています。

ふ

れあい給食サービスは高齢者と地域の結びつきをつくり、深める事業です。

70歳以上の1人暮らしやご夫婦が対象で、地域の方やボランティアさんの協力のもと、近くの会館に集まって会話を楽しみながら交流を深める「会食方式」と、地域の方が安否を気遣いつつ

自宅にお弁当を届ける「配食方式」があります。

平成2年に本町地区で「会食方式」が始まり、花川地区へと広がる中で「配食方式」も増え、現在は市内15の地区社会福祉協議会や町内会で実施し、利用者も年々増加しています。

ふれあい給食サービスにはもう一つ、地域の関係者の皆さん同士の結びつきを深める目的もあります。町内会役員、民生委員児童委員、ボランティアさんなど、地域で活躍する関係者がこの事業に携わり、回を重ねることで連携が図れるようになります。

* * *

社会の少子高齢化に伴い、高齢者世帯が抱える問題が多様化しています。既存の福祉制度やサービスでは解決できない、制度の「はざ間」を埋めるため、今ほど地域のマンパワー＝地域の皆さんの力が求められている時代はありません。社会福祉協議会の事業は、市民の皆さんの協力を得て成り立つものばかりです。地域とつながるふれあいの輪を一緒につくっていきませんか！



まちづくりの新たな胎動をいち早くキャッチしてご紹介するシリーズ「まちづくり最前線」。

第15回は「地域交流」について。



リポーター

石狩市社会福祉協議会
地域福祉課
工藤 順也

7月20日(日) ふれあい広場いしかり

「ふれあい」で広がる相互理解をスローガンに、「やさしさの風になろうよ」をテーマとして、毎年全ての人が集い、ふれあいを通してともに学び、語り合う福祉のお祭りです。

心温まるひとときを一緒に過ごしてみませんか！



時間 10:00～ 場所 りんくる(花川北6-1)
問合せ ふれあい広場実行委員会(市社会福祉協議会内) ☎72-8184

▼ふれあい給食サービス 1食600円のお弁当を石狩市社会福祉協議会が300円負担し、残りを利用者が負担します。お弁当を介してふれあうことで、心の通った地域となることを願い、実施しています。写真は花川南第二地区福祉の会の会食の様子。



ふれあい給食サービスを活用する 花川北地区の北六条町内会を 直撃インタビュー！

- ・ふれあい給食サービスに取り組んだのは平成23年から。月2回、約30食を配っている
- ・配食のボランティアさんは現在4人いて、2人ずつ交替で対応
- ・ふれあい給食サービスのほかにも町内会や高齢者クラブ、民生委員が互いに連携し、地域の見守り安否確認を実施している

このサービスが始まったときからお世話になっています。今、1人暮らしなので自炊していますが、お弁当が届く日は味噌汁だけ作ればいいので大変助かりますね。3軒のお店のお弁当が交互に届くので、いろいろな味が楽しめるのも気に入っています。



お弁当を受け取る人
木野村 保寿さん(74)

月1回、夫や娘にも時々手伝ってもらいながらお弁当を配っています。利用者の中にはドアを開けて楽しみに待っている方もいて、「寒かったですでしょう」とか「いつもありがとう」と言っていたわってもらうことも。こちらはただ配っているだけなので、かえて恐縮しています。自分もいつ逆の立場になるか分かりませんから、お互いさまと思い、取り組んでいますよ。



お弁当を届ける人
佃 喜美子さん(63)

お弁当を届ける人
小林 祥子さん(56)

1年前からこのボランティアに携わっています。親が石狩で暮らしていて、亡くなった後、私もここに移ってきました。きっと親もいろいろと町内の方にはお世話になったと思うので、少しでも何かお役に立つことがあればと思って始めました。「お庭がきれいですね」など何気ない会話がほとんどですけど、お弁当を介してそういう交流ができるのはいいことだと思います。